

令和6年度学校評価中間報告書

学校名（廿日市小学校）

評価計画				自己評価						学校運営協議会 委員評価コメント	改善方策
中期経営目標 (めざす児童生徒像)	短期経営目標 (めざす児童生徒像)	目標達成のための方策	評価項目・指標	目標	中間 8月	最終 2月	達成	評価	結果と課題の分析		
①確かな学力の育成	◎自ら学び、自ら考え、 創意工夫して相手に わかりやすく表現し ようとする態度を身 に付ける 【小中共通】	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の主体的な学びを促す 単元づくりを進める</li> <li>児童の実態・発達に基づいた 授業改善を行う。 【小中共通項目】</li> <li>自主家庭学習の取組を進め る</li> <li>研究授業を行う</li> </ul>	「自分の力に合った内容や方法、学習 の進み具合などを選んで学習を進めて いる」と回答した児童の割合（自己選 択・自己決定） ＜児童アンケート＞	90	88.9		98	B	・98%の達成率だった。1学期 に積極的に児童が授業内におい て、自分にとってよりよい方法を 「選択」する場を意識して授業を 行った。	・児童が活躍する場を考える ために、先生同士が授業を参 観しあったり、授業について いろいろな先生たちと話をし たりして、日々の授業につい て改善する機会を設ける。 (研究授業・協議の実施)	
			自ら学び、考え、協働して課題を解決 する授業づくり 課題の解決に向けて、「自分で考え、自 分から取り組んでいる」と回答した児 童の割合 ＜6年生対象全国学力評価紙＞ 【市共通項目】	85	83		98	B	・達成率は、98%だった。自分 で考え、自分から取り組んでいる と感じている児童が多い。	・児童の活躍の場を設け、常 に評価し、自己肯定感や自己 有用感を高め、自分で考え自 分から取り組んでいるという 実感をもたせていく。	
			標準学力調査（国語・算数）の平均が 60%未満の児童の割合	15							
			「自分で考えて家庭学習を計画的に進 めている」と回答した児童の割合	95	86.8		91	B	・91%という達成率だった。自 分で計画を立てて、家庭学習をす ずめていくことができている。	・自分で計画を立てて家庭学 習をすすめていくことのよさ と、それに対する教師の評価 をしっかりと行い、児童の達成 感を味わわせていく。	
②豊かな心・健やかな 体の育成	人の気持ちを考え、行 動できる児童を育成す る	「挨拶」の向上に向けて児童 の主体的な活動を仕組む	挨拶が「できている」と回答した児童 の割合 ＜児童アンケート＞	95	91		96	B	「挨拶ができている」と回答して いる児童は91%であるが、児童 の挨拶に対する肯定的評価は、保 護者84%、教職員74%となっ ている。	生活上委員会による工夫し た取組を行うとともに、ポラ ンティアによる挨拶運動を行 う。	
			自己肯定感、自己有用感を育 てる学級・委員会活動等の取 組を仕組む 【小中共通項目】	「クラスのみんなや学校の役に立っ た」「学校が楽しい」と回答した児童 の割合 ＜児童アンケート＞	85 95	役 80 楽 91		94 96	B	「役に立っている」と回答した児 童は、学級によって大きな差があ る。「学校が楽しい」と回答した 児童は9割を超えているが、「全 く楽しくない」と回答した児童も 2%いる。	低・中学年においては、係活 動や学級レクなど学級の取組 を充実させ、高学年において は主体的な委員会活動となる よう工夫するとともに、児童 の良さをしっかりと認める声か けを行う。
			時間いっぱい自分の持ち場 を丁寧に掃除する取組を仕 組む。	「児童は時間いっぱい丁寧に掃除して いる」と回答した児童・教職員の割合 ＜児童アンケート・教師アンケート＞	児 95 教 95	児 92 教 90		96	B	達成率は96%で、日常の様子を 見ても児童は時間いっぱいよく 掃除をしている。	中学校区の掃除の目標が「気 付き掃除」のため、もくもく 掃除からのレベルアップを目 指す。また、美化委員会が低 学年向けの「掃除の仕方」の 動画を作製予定。

③「地域とともにある 学校」の創造	学校運営協議会を設立し、地域と学校が連携・協働して教育を進める体制を整える	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合的な学習の時間を中心に、児童が地域への愛情を育むことのできる場をつくる</li> <li>学校運営協議会の効果的な運営がなされるよう、熟議を行って意識統一を図る</li> </ul>	「地域のよさに気づき、地域のためにできることを考えた」と回答した児童の割合 <児童アンケート>	90	89		98	B	甘笑応援団の方々との交流は計画的に行い、見守り隊の活動など地域の方々に支えられていることへの感謝の気持ちをもっている。生活科や総合的な学習の時間の学習を中心に地域へ愛情をもち、さらに地域へ貢献しようとする意識づけを行う必要がある。		引き続き、支援をお願いするものについて、学年で話し合ったことを事前に伝える支援計画書の作成を計画的に行い、甘笑応援団との連携を密に行う。生活科や総合的な学習の時間の学習を中心に地域へ愛情をもち貢献しようとする単元づくりの工夫をする。
④保護者・地域の信頼を高める	働き方改革を推進し、子どもと向き合う時間を確保する	業務の見直しを行う	時間外勤務手当が月平均 45 時間を超えていない教職員の割合 <在校等時数記録>	80	66.2		83	B	4月から8月の月の超過勤務が45時間以上の職員は、平均して66.2%であった。また、60時間以上の職員は、全体の12.8%であった。4月・5月に月の超過勤務が45時間を超えた職員は、50%以上であったが、その後徐々に減少している。		毎月、4.5時間以上の超過勤務の職員が、市の平均よりも本校は多い実態がある。職員一人一人が自分の働き方を見直し、更に業務改善を進めていく。

※ 中間評価は、8～11月に実施することとする。

※ 中間報告は、本年度の重点目標についてのみの報告でもよいこととする。

※ 中間評価の実施月を記入し、この時点での実数値を記入する。

※ 「評価」の項目については、「達成度」は「報告期の数値／目標値」である。

「目標値」に対する「達成度」をA～Dで評価する。(A:100% B:80%以上 C:60%以上 D:60%未満)

「不登校児童生徒が〇人以内」等逆転項目の評価については、2～4段階で評価できるよう学校で定める。

※ 達成度の度合いから、評価項目・評価指標・目標値が適切であったかという視点でも見直し、目標値の修正や指標の変更・追加があってもよい。

※ 中間報告書の提出の際には、学校関係者評価の結果が反映されていなくてもよい。

※ 参考資料があれば添付すること。